

総務委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 2026年5月18日（月）～20日（水）
- 2 視 察 先 調査事項
- 佐賀県武雄市
 - ・気候変動を踏まえた防災・減災のまちづくりについて
 - ・西九州新幹線開業を契機とした武雄温泉駅周辺整備事業について（官民連携によるにぎわい創出）
 - 佐賀県嬉野市
 - ・地域公共交通の再編と自動運転等の新技術活用について
- 3 視 察 者
- | | |
|---------|---------------|
| 委 員 長 | 芹 澤 正 志 |
| 副 委 員 長 | 太 田 智 博 |
| 委 員 | 青 柳 順 子 |
| 委 員 | 須 山 泰 一 |
| 委 員 | 竹 中 理 |
| 委 員 | 福 田 嗣 久 |
| 委 員 | 米 田 達 也 |
| 当 局 | 浪 華 誠（経営企画課長） |
| 議会事務局 | 山 本 雅 彦 |



防災・減災の説明を受ける委員（武雄市役所）



整備された武雄温泉駅前（武雄市）



公共交通の説明を受ける委員（嬉野市役所）



庁舎前にて（嬉野市役所）

日 時	2026 年 5 月 18 日（月）午後 2 時 00 分～3 時 30 分
視 察 先	佐賀県武雄市
調査項目	気候変動を踏まえた防災・減災のまちづくりについて
調査内容	武雄市は令和元年 8 月豪雨と令和 3 年 8 月の大雨で、2 年で 2 回の大きな浸水被害を受けている。 その中で、気候変動を前提とした防災・減災のまちづくりに向け、武雄市新・創造的復興プランを立てられ、取り組みを進めている。 その新・創造的復興プランを中心に、武雄市における防災・減災・まちづくりについて伺った。
所 感	・令和元年では、3 日間で 482mm、令和 3 年では、9 日間で 1,256mm と相当な雨量があり、非常に緊迫した災害現場であったことが伺い知れた。 ・その中で、令和 3 年 11 月に策定された新・創造的復興プランでは、「誰もが安心して住み続けられ、新たな賑わいが生まれる創造的復興」を基本理念として掲げ、抜本的な対策と共に、水害は今後も起きるものとして捉え、被害の最小化、具体的には床上浸水ゼロをまずは目指すという部分については、特筆すべきものを感じた。 ・また、様々なハード整備を行ったとしても、浸水想定では、床上浸水戸数が 450 戸は想定され、それをゼロにするためには官民一体での流域治水を行う必要があり、そこに注力されているというのは非常に興味深く感じた。 ・特に、「六角川流域水害対策計画」で計画されている「ためるプロジェクト」では、とにかく川に流れる水量を少しでも減らしていけるように、ないしは、流れ込む時間を少しでも稼げるように、田んぼダムや雨水貯留タンク、学校や体育施設のグラウンドを活用し雨水をためるなどの「ためる」事業を進めているというのは、1 つの選択肢として検討しようと感じた。 ・さらに、上記のうち、田んぼダムについては全市の水田 2,400～2,500 ヘクタールのうち 207 ヘクタールが実施されていて、約 1 割の田んぼが災害時には貯水地として使われるとのことだった。その田んぼの持ち主に対しては堰板購入の補助を県や市が行っており、それらも治水対策の一翼を担っていることが分かり、参考となった。 総じて、「水害は今後も起きるもの」を前提にハード・ソフト共に整備が行われており、また、それらに対して、ある種の覚悟を持って取り組まれている。豊岡市としても、昨今の気候変動を前提とした動きをしっかりと考えていかなければならないと感じた。

日 時	2026 年 5 月 19 日（火）午前 9 時 30 分～11 時 00 分
視 察 先	佐賀県武雄市
調査項目	西九州新幹線開業を契機とした武雄温泉駅周辺整備事業について
調査内容	武雄市では、2022 年 9 月に武雄温泉～長崎間の新幹線が開業した。それに伴い、開業前から、「魅力創造行動計画」を策定し、様々な事業を実施されている。今回は駅前の官民連携によるにぎわい創出に焦点をあて、新幹線開業を契機としながら、どのように賑わいを作り出しているのかを伺った。
所 感	・平成 20 年 5 月 29 日より、新幹線活用プロジェクトが発足し、商工団体や観光団体、交通関係者、区長会、市などで協議を重ね、平成 31 年 2 月に「魅力創造行動計画」を策定されている。具体的な行動計画として、駅高架下空間の整備や駅前広場の整備、回遊性のある観光地づくりなどを掲げ、「西九州のハブ都市」となるべく、様々な取り組みが行われていた。それらは、国庫補助金事業である「社会資本整備総合交付金事業」の中で取り組まれていた。 ・中でも、まちなかウォークアブル推進事業については、観光客・地元の方問わず「歩く」ことを中心に据え、駅前空間を貸し出したりすることで賑わい創出を狙っているとのことだった。豊岡市と同じく、駅周辺以外の方は車前提の生活であると想定されるが、駅前にある駐車場を官民で役割分担をおこないながら、車を置いて、歩いてまちを楽しむ仕掛けがされているところについては、特筆すべき点がある。 ・R 4 年 3 月には、「武雄で始める学校 武雄まちなか将来ビジョン」を策定され、武雄温泉駅周辺のまちづくりについて、特に若い世代が夢を描きながら実施したらよい事業などを検討されていた。そこでつながった若者世代が、実際に行動し、ゲストハウスやコワーキングスペースなどの事業立ち上げを行っておられ、「若者がつながる場」としての機能が非常に有用に働いたことが伺い知れる。 ・また、若者に関してのトピックスとして、R 8 年 4 月に武雄アジア大学が開学し、観光やマネジメントなどを学ばれるとのことで、今後の観光分野での連携が期待できるとのことだった。これは豊岡にある観光文化専門職大学と近いものがあることから、今後の動きから、豊岡市としても取り入れられるものがないかなどの情報をキャッチしておく必要があると感じた。 総じて、西九州新幹線開業は 1 つの契機として捉えつつ、まちをどうしていきたいかを改めて多様な方々の関わりの中で考えていき、それらを実行に移していると感じた。豊岡の中でも「多様な方々とのまちづくり」を考える良いきっかけとなった。

日 時	2026 年 5 月 19 日（火） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
視 察 先	佐賀県嬉野市
調査項目	地域公共交通の再編と自動運転等の新技術活用について
調査内容	○<u>嬉野市地域公共交通計画</u> R4 年 3 月策定 計画期間：令和 4 年度～令和 8 年度 ・持続可能な公共交通体系を構築するためのマスタープラン ・主にサービス水準の適正化や公共交通に関する環境整備 1 路線バスおよび乗り合いタクシーの見直し ・見直しの背景：利用の低迷、運転手不足、路線バス嬉野線（JR 九州バス）の廃止など ・見直しの概要：利用低迷の 4 路線の運行形態の見直し 「路線定期運行」～定期的かつ一定の利用がみられる便は定期運行を維持。 「路線不定期運行」～利用が少ない便（ルート、時刻表は設定するが、事前予約に応じて運行）。一部、ルートの見直し、バス停の追加。 「区域運行」～ごましおタクシー、1 回 300 円。 ○<u>自動運転実証実験から見えた課題と可能性</u> ・人口減少、コロナ禍で観光客減の中、西九州新幹線開業で駅ができた。新たな交流拠点の誕生が契機。 ・R3 年より内閣府の「未来技術社会実装事業」への取り組みを開始。自動運転はその一環。 ・負担は国が 1/2、市が 1/2。 ・自動運転車両そのものを観光コンテンツに。 ・新幹線で来た人を駅から街中まで送る 2 km を、自動運転にできないか。 ・R5 年度～R7 年度、3 か年の実証実験。R7 年は 11 月 5 日～23 日 ・ルート：R5 年は駅と中心市街地片道 2.5 km、R6 年より 1 周 5 km の循環ルート。夜間も運行。 ・公式ライン、デジタルマップなどの情報提供サービス導入は効果的だった。 ・<u>成果：利用需要と高い期待</u> 休日昼間は、ほぼ満車、アンケート 8 割が「今後も利用したい」。 ・<u>課題：路上駐車、交通ルール順守に向けた協力体制</u> 1 路上駐車への対応 路上駐車により手動介入が必要となる。 2 交通ルール順守に向けた協力体制の構築 他 雨粒による誤検知、ステアリングエラー、内部 PC エラー等 ・<u>将来展望</u> 自動運転を行った通りでは、以前に一方通行化の実証に取り組み、住民から大反対を受けたが、未来技術の取り組みでの意見交換により信頼関係が築けた。自動運転の技術は向上しているが道半ば。物価高騰はイニシャルコスト・ランニングコストにも大きく影響。総合的に判断した結果、実装は見送る。
所 感	近年の運転手不足と、それ自体を観光コンテンツにするために、自動運転への期待は高く、各地で様々な実証実験が行われている。本市でも同様だ。しかし、技術的に、まだ不十分な点がある。そこを越えることができない段階では、自動運転を実装するのは難しいのではないかと。